

令和4年度事業報告書

公益社団法人
全国競輪施行者協議会

事 業 概 要

令和4年度の我が国の社会情勢は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた。とりわけ夏の第7波、冬の第8波では感染者が急増し、先行き不透明なコロナ禍に社会の閉塞感が再び高まった。しかしながら、年明け1月には、重症化リスクの低下を踏まえ政府が5類感染症への引下げを決定するなど（令和5年5月8日実施済）、社会経済活動が正常化に向けて大きく動き出した。

競輪事業においても、新型コロナウイルス感染症が拡大する中で、感染防止策の再徹底やワクチン接種の推奨を図るなど、安心で安全な競輪の開催に係者が一丸となって取り組んだ。その結果、令和3年度には29節56日に及んだ新型コロナウイルス感染症による開催中止は、令和4年度は6節11日にとどまった。

これらの取組みにより、本場・場間場外におけるコロナ禍の影響を最小限にとどめる一方、電話・インターネット投票による売上の拡大等により、本年度の競輪車券総売上高は総額で1兆907億7,929万200円に達した。これは対前年度比で113.1%、実額ベースで約1,262億円増と、9年連続で前年度を上回る結果である。

グレード別にみると、FⅡは全体増加額約1,262億円のうち約702億円を占め、ミッドナイト競輪の売上増加やモーニング競輪の開催増加により前年度比119.1%、FⅠはナイター競輪の開催増加により113.1%、GⅢ・GⅣ・GⅤは前年度比107.8%となった。GⅥについても前年度比104.8%とすべてのグレードにおいて前年を上回った。

これらはミッドナイト競輪やモーニング競輪の開催など多様なファン層を先導的に取り込んできた施行者はじめ業界関係者の努力の成果である。あわせて民間ポータルサイトもこうした競輪開催の多様化やコロナの巣ごもり需要などを背景に売上を伸ばし、総額で約6,968億円と前年度比123.2%と増加し、売上全体の63.9%を占めるに至っている。

こうした競輪界一丸となった取組みの結果、中期基本方針における令和7年度売上目標（1兆円）が令和4年度に達成された。今後は、令和5年3月の競輪最高会議において決定した中期基本方針における新たな売上目標額1兆2,500億円及び施行者収益額450億円の達成に向け、同方針の取組みを着実に推進していく。